

## 創業者インタビュー

ばいな わーふ

# Pa'ina Wharf

た だ ぎん じ ろう  
多 田 銀 次 郎 代表



### “ローカルなハワイアン” カフェ

オーナーの多田銀次郎氏は、かつて大手電機メーカーに勤務し、商品企画を担当していた。仕事は楽しかったが、「自分が作ったものに対するお客さんの反応が見えること、アナログなことをしたい」という思いが募り、転職。ハワイに住んでいた友人が帰国するのに合わせ、2人で武庫之荘にハワイアンカフェPa'ina Wharf(パイナワーフ)をオープンした。

店内はアロハシャツもハイビスカスもない“ローカルなハワイアン”。DIYで改装したもので、ハワイに詳しい人からも「懐かしい」と言われる。

メニューは定番の「ロコモコ」や、アヒ(マグロ)にオリジナルのフリカケをまぶしてソテーしたフリカケアヒがおすすめ。

### 人とモノが行き交い、生まれる場所へ

店名は、Pa'ina=人の集まる、Wharf=船着き場というハワイの言葉に由来する。パイナワーフはアコースティックライブなどのイベントも多く開かれ、さまざまな人が立ち寄る場所になっている。例えば、尼崎を拠点に活動するレゲエチームのマネージャーがアルバイトをしているつながりから、国内で知られたレゲエシンガーのライブや、珍しいものでは鍼灸師のお灸カフェなどもある。

イベント開催時をのぞき、カフェはランチタイム中心。その後の時間は、多田氏のもうひとつの活動の柱であるデザインの仕事にあてる。

これまでに制作してきたものはフライヤーなどの印刷物、ホームページ、アクセサリと多彩。尼崎の新フード「武庫川フィッシュ&チップス」のロゴも多田氏の作品だ。パーカーなどの衣類はデ

ザインした図柄をシルクスクリーンという方法でプリントするため、1着からでも受注できるのが強み。市内のお店のスタッフTシャツも手がける。

### 置きチラシマッチング chilacy(チラシー)

多田氏は、印刷会社の後継者でもある同級生とともに、チラシを配りたい人とチラシを置いてほしいという店をマッチングするwebサービス、「chilacy」をリリースした。

カフェではチラシを置いてほしいと頼まれることが多いが、その内容と客層にしばしばミスマッチがあることから着想したサービスだ。チラシを配りたい人は「chilacy」を利用することにより、置いてくれるお店をweb上で探せるので、今までのような手間がなく、かつ効率的に置きチラシができる。チラシを置く店舗も、事前にチラシの画像を確認できるため、自店舗に合わないチラシの場合は断ることもできる。配る側が「chilacy」に払う手数料は置いてくれた店舗へ還元される。「chilacy」により、情報の発信者から、届けたい相手へ、効率よくチラシが届くことによりチラシの無駄が減り、あわせて印刷物の価値も高まるという仕組み。

その名の通り、さまざまな人やコトがやってきて、共に時を過ごし、あるいはモノやコトが生み出され、送り出される港のようなカフェだ。

#### 企業情報

代表者プロフィール：30代・男性・尼崎市出身  
創業：2015年8月  
事業内容：カフェ、デザイン製作  
カフェ営業時間：11時～16時。水・定休  
所在地：尼崎市南武庫之荘2-17-20  
電話：06-6415-6661  
ホームページ：<https://painawharf.com/>